



海軍造船大監從五位勲六等河崎民植

特旨ヲ以テ位一級被進

從五位勲六等河崎民植

叙正五位

右謹テ奏ス

明治三十二年九月二十九日

内閣

閣

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

七

内閣書記官 海第一一五番

九月二十九日 九月二十九日 九月二十九日

明治卅二年九月十九日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長

海軍造船大監從五位勲二等河崎民雄、多年軍務ニ
従事シ勤勞不少候處、目下病氣危篤、趣ニ付此際
特旨ヲ以テ位一級進ノラレ然ルヘシ

内閣

海軍造船監位勲六等河崎民樵

叙正五位

右謹奏

明治三十二年九月二十九日

海軍大臣 山本權兵衛



海軍

海軍大臣 二百十一號

河崎海軍造船大監ハ明治十九年六月海軍中尉技師ニ任セラレ次ニ同年十一月海軍大技士ニ轉任爾來軍務ニ從事スルコト茲ニ二十有四年此間勤務精勵能ク其職ヲ盡シ殊ニ二十七八年戰役ニ際シテハ古世保鎮守府造船部造船科主幹ノ職ニテリテ其功績顯著タル者ニ候處過般來疾病ニ罹リ目下轉地療養中遂ニ危篤ニ墮到底存命ニ費束候ニ付特ニ一級進メラシ度別紙上奏書進達ス

明治二十二年九月二十九日

海軍大臣 山本權兵衛
内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋 殿



海軍